

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 14 日現在

機関番号：14301

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2012～2014

課題番号：24520351

研究課題名(和文)『失われた時を求めて』の歴史的背景に関する総合的研究

研究課題名(英文)General study on historical background of In Search of Lost Time

研究代表者

吉川 一義 (Yoshikawa, Kazuyoshi)

京都大学・文学研究科・名誉教授

研究者番号：30119870

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 4,000,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、フランスの作家プルーストの長篇小説『失われた時を求めて』が、どのような政治、社会、文化、言語の歴史的背景をもとに成立したものであるか、またそれらの事象がいかに本作に取り込まれたかを、当時の一次資料、作家のメモ帳、草稿帳、校正刷、書簡集などの網羅的調査によって解明したうえで、そうした歴史事象が作中でどのような機能を果たしているかを考察し、その成果を内外のシンポジウム、専門誌、『失われた時を求めて』の翻訳の注解などで発表した。

研究成果の概要(英文)： Through comprehensive examination of primary sources, the writer's notes, rough drafts, proofs, collection of letters, etc., of the time, this research elucidates the historical background politics, society, culture, and language against which the French writer Proust created the novel In Search of Lost Time and how those events were actually incorporated into the work. From here, how those historical events function within the work is considered. The results of the research were presented at symposiums in Japan and overseas, in journals, in annotations to a translation of In Search of Lost Time, etc.

研究分野：フランス文学

キーワード：プルースト 失われた時を求めて 歴史的背景 小説創作の秘密 翻訳の注解

1. 研究開始当初の背景

(1) 『失われた時を求めて』の政治、社会、文化、言語をめぐる背景に関しては、さまざまな研究が存在する。詳細な注解が付された『失われた時を求めて』校訂版 *À la recherche du temps perdu*, (Bibliothèque de la Pléiade, Gallimard, 4 vol, 1987-1989)、コルブ編纂の『ブルースト書簡集』 (*Correspondance de Marcel Proust*, Plon, 21 vol, 1971-1993)が、小説成立の政治、社会、文化、言語の背景を明らかにする一次資料である。申請者が代表をつとめる日本のブルースト研究会が完成した『書簡集総合索引』 (*Index général de la Correspondance de Marcel Proust*, Presses de l'Université de Kyoto, 1998) はその補助資料となる。さらに André Maurois (Hachette, 1949), George Painter (Mercure de France, 1963 et 1966), Jean-Yves Tadié (Gallimard, 1996) が著した詳細な伝記には当時の政治や社会の状況が詳しく記述されている。小説と作家をめぐる総合辞典である *Dictionnaire Marcel Proust* (Champion, 2004) も貴重な情報を提供してくれる。フランス国立図書館での展覧会カタログ *Marcel Proust, l'écriture et les arts* (Gallimard, 1999) も重要な文献である。文化的背景については、さらに詳しい専門的研究が進んでいる。哲学では Anne Henry の *Marcel Proust, theories pour une esthétique* (Klincksieck, 1981) や *Proust romancier* (Flammarion, 1893) などの著作、絵画では Juliette Monnin-Hornung, *Proust et la peinture* (Droz, 1951) や、申請者の著作『ブルースト美術館』 (筑摩書房、1998)、『ブルーストと絵画』 (岩波書店、2008)、*Proust et l'art pictural* (Champion, 2010)、音楽では Jean-Jacques Nattiez, *Proust musicien* (Christian Bourgeois, 1999)、中世建築では Luc Fraisse, *L'Œuvre cathédrale, Proust et l'architecture médiévale* (Corti, 1990) など、特定分野に関する個別研究が発表されてきた。またドレフュス事件、

第一次世界大戦、第三共和政下の外交、当時のサロン文化などについては、専門的論文により『失われた時を求めて』の背景を詳しく知ることができる。

(2) しかし、『失われた時を求めて』にあらわれた政治から言語にいたるさまざまな背景を網羅的に調査するとともに、それら受容された事象がどのように小説に取り込まれ、それが作中でどのような機能を果たしているかを総合的に解明した研究は、いまだ存在しない。本研究は、この欠落を補うため、ブルーストと絵画について先に引用した実証的かつ総合的な研究を発表してきた申請者が、同じ調査方法を用いたうえで上記課題に関する総合的調査を行い、ブルースト研究の発展に寄与しようとするものである。

2. 研究の目的

本研究は、フランスの作家ブルーストの長篇小説『失われた時を求めて』が、どのような政治、社会、文化、言語の背景をもとに成立しているか、そららの事象がどのように本作に取り込まれ、それが作中でどのような機能を果たしているかを解明するため、対象を『失われた時を求めて』にあらわれる政治、社会、文化などへの言及に絞り、その受容と創作への転化を当時の一次資料、作家のメモ帳、草稿帳、校正刷、書簡集など調査にもとづき網羅的に調査し、ブルースト小説の独自性と普遍性の秘密を解明することを目的とする。

3. 研究の方法

(1) 本研究の基礎資料は、さきに挙げた『失われた時を求めて』の刊本、書簡集、研究書のほか、当時の新聞雑誌をはじめとする一次資料である。まずはこれらを広範に調査分析した。

(2) ブルーストと接点を有する同時代の政治、社会、文化がどのような状況にあったか

を解明するため、前記『書簡集総合索引』をはじめブルーストの各種刊本の索引を活用しつつ、当時の新聞や雑誌にあらわれた政治や社会の事件、文学・絵画・音楽・建築・演劇・バレエ・装飾芸術、写真などの文化事象に関する書物や論文などをリストアップした。そのうえで作家のこれら受容の実態を明らかにできる専門書、雑誌論文、当時のカタログやプログラムなどを収集・分析した。

(3)『失われた時を求めて』にそれらの事象がどのように取り込まれたかについて初期作品、評論文、草稿ノート、タイプ原稿、校正刷なども援用して分析した。

(4)受容された諸事象が『失われた時を求めて』でどのような役割を果たしているかについても考察した。小説には、ドレフュス事件、第一次世界大戦などの大事件への言及だけでなく、さまざまな社会事象、文化的イベント、絵画や音楽などの作品への暗示が頻出するばかりか、現実の人物や芸術に想をえた架空の人物や作品が出てくる。これら現実とフィクションがどのように交錯して複雑な小説空間を形づくっているか、それらの事象が作中でどのような機能を果たしているかを理解するよう努めた。

(5)以上の研究成果を内外の学会、シンポジウム、専門誌に発表するとともに、成果の一部を刊行中の『失われた時を求めて』の翻訳(岩波文庫)の注解に採り入れた。

4. 研究成果

(1)以上の方法により、『失われた時を求めて』に言及される政治、外交、社会、文化、言語などの事象の実態を実証的かつ総合的に明らかにできた。

(2)受容された社会や文化の事象がどのように代表作『失われた時を求めて』に取り込まれたかについて、小説本体や初期作品や批評文だけでなく、作家の創作メモ帳、草稿ノート、タイプ原稿、校正刷などの資料を調査することにより、現実の受容から創作へのプ

ロセスを資料にもとづき実証的に明らかにできた。

(3)『失われた時を求めて』には、現実とフィクションを微妙に交錯させることで小説の効果を高めている箇所が多い。社会から文化にいたる事象が作品にどのように取り込まれたかを総合的に分析することにより、現実とフィクションの関係について、現実のフィクションへの昇華へという図式では説明できない『失われた時を求めて』の成立基盤について、新たな見取図を描くことができた。

(4)ブルーストの政治から文化の受容の背景を明らかにすることにより、とかく観念的に解読されがちな『失われた時を求めて』を当時の歴史状況のなかに位置づけることができ、これにより従来「創作の秘密」とされてきた作家の現実受容と創造との関係をより実証的に解明する可能性が拓けた。

(5)従来のフランス文学史(あるいは広く各国の文学史)では手薄であった、文学以外の社会や文化の受容に関して詳細な調査をおこない、文学史革新のひとつの方策を探ることができた。

(6)本研究の成果を、専門の個別論文として発表するだけでなく、ブルースト草稿帳「カイエ53」の校訂版注解や、『失われた時を求めて』全訳の注解と解説に採り入れ、フランス文学研究の専門的成果を広く日仏の読書人に公開することができた。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計6件)

吉川一義「ブルーストをいかに日本語に翻訳するか」、『日仏翻訳交流の過去と未来』, 大修館, 査読なし, 2014年11月, p. 42-55.

吉川一義「『失われた時を求めて』における考古学上の発見　ギリシャの彫刻とエジプトのミイラ」, 「思想」11月号特集「時代の中のブルースト」, 岩波書店, 査読なし, 2013年11月, p. 155-170.

Kazuyoshi Yoshikawa, « Swann, le héros, et leurs doubles », *Swann le centenaire*, 査読なし, p. 387-403.

吉川一義、「『失われた時を求めて』におけるベノツォ・ゴッツォリへの暗示の生成と構造」, 「仏文研究」, 京都大学フランス語学フランス文学研究会, 査読なし, n° XLIII, 2012年10月, p. 51-67.

Kazuyoshi Yoshikawa, « Quelques modèles de la musique de Vinteuil », *Marcel Proust, une vie en musique*, Archimbaud/Riveneuve, 査読なし, octobre 2012, p. 177-179.

Kazuyoshi Yoshikawa, « Proust et la critique d'art du XIX^e siècle », *Proust face à l'héritage du XIX^e siècle*, Presses Sorbonne-Nouvelle, mai 2012, p. 133-140.

[学会発表](計2件)

Kazuyoshi Yoshikawa, « Comment traduire le roman de Proust en japonais », Université de Bordeaux 3, 24 octobre 2014.

吉川一義、「ブルースト『失われた時を求めて』と絵画」, 日仏医学会総会、日仏会館(東京) 2014年7月5日.

Kazuyoshi Yoshikawa, « Une nouvelle traduction de la *Recherche* en japonais », Université de Kyoto (Kyoto), 3 juin 2014.

吉川一義、「ブルーストをいかに日本語に翻訳するか」, シンポジウム「日仏翻訳交流の過去・現在・未来」, 日仏会館(東京) 2014年4月19日.

Kazuyoshi Yoshikawa, « La lanterne magique de Geneviève de Brabant », dans le cadre de « 5^e Balbec normand de Marcel Proust », Casino de Cabourg (France), 30 juin 2013.

Kazuyoshi Yoshikawa, « Proust et ses “villes d'art célèbres” », colloque « *Du côté de chez Swann* ou le cosmopolitisme d'un roman français », Paris (France), École normale supérieure, 14 juin 2013.

Kazuyoshi Yoshikawa, « Comment

traduire le roman de Proust en japonais », Harvard University, Boston (USA), 22 avril 2013.

Kazuyoshi Yoshikawa, « Proust et les découvertes archéologiques », colloque « Proust et les Arts », Harvard University, Boston (USA), 20 avril 2013.

Kazuyoshi Yoshikawa, « Tableaux désignés, suggérés et caches dans la *Recherche* », Korea University (Séoul, Corée du Sud), 15 novembre 2012.

Kazuyoshi Yoshikawa, « Proust et la peinture », Korea University (Séoul, Corée du Sud), 13 novembre 2012.

Kazuyoshi Yoshikawa, « Swann, le héros, et leurs doubles », colloque « Swann, le centenaire », Centre culturel international de Cerisy-la-Salle (France), 30 juin 2012.

吉川一義、「『失われた時を求めて』におけるベノツォ・ゴッツォリへの暗示の生成と構造」, 京都大学フランス語学フランス文学研究会, 京都大学文学研究科(京都市), 2012年5月26日.

[図書](計7件)

吉川一義、「ブルーストの世界を読む」, 「岩波人文書セレクション」新版、岩波書店、2014年10月, 194 p.

ブルースト作 / 吉川一義訳『失われた時を求めて7 ゲルマンのほう III』, 岩波文庫, 2014年6月, 605 p.

ブルースト作 / 吉川一義訳『失われた時を求めて6 ゲルマンのほう II』, 岩波文庫, 2013年11月, 422 p.

Antoine Compagnon et Kazuyoshi Yoshikawa, avec la collaboration de Matthieu Vernet, *Swann le centenaire*, Hermann, septembre 2013, 423 p.

ブルースト作 / 吉川一義訳『失われた時を求めて5 ゲルマンのほう I』, 岩波文庫, 2013年5月, 442 p.

Marcel Proust, *Cahier 53*, t. I :

fac-similé critique, xi-209 p.; t. II :

transcription diplomatique, notes et

index, xl-255 p., édités par Nathalie
Mauriac Dyer, Pyra Wise et Kazuyoshi
Yoshikawa, Turnhout (Belgique),
Brepols, mars 2013.

ブルースト作 / 吉川一義訳 『失われた時
を求めて 4 花咲く乙女たちのかげに
II』, 岩波文庫, 2012年6月, 703 p.

〔産業財産権〕

出願状況 (計 0 件)

名称 :
発明者 :
権利者 :
種類 :
番号 :
出願年月日 :
国内外の別 :

取得状況 (計 0 件)

名称 :
発明者 :
権利者 :
種類 :
番号 :
出願年月日 :
取得年月日 :
国内外の別 :

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

吉川一義 (YOSHIKAWA Kazuyoshi)
京都大学文学研究科・名誉教授
研究者番号 : 3 0 1 1 9 8 7 0

(2) 研究分担者 なし

()

研究者番号 :

(3) 連携研究者 なし

()

研究者番号 :